

中学校 第1学年 単元「心の歩み」 「大人になれなかった弟たちに… ～『僕』の心情 を活用して想像し、弟から『僕』に手紙を書こう～」

「僕」の心情が分かるところを関係付けて考えると、弟の気持ちになれそう。



生徒作品

あの頃は今とちがって戦争中だったから、食べ物配給制だったよね。だから、十分に食べるものはないかった。

ひもじかった兄ちゃんは盗み飲んでしまった。そして、僕は栄養失調で死んだ。それはお兄ちゃんのせいじゃない。僕が生きていて兄ちゃんが死んでいたら、何もできない僕はいずれ死んでいたと思う。

自分が悪いと思わずに、この出来事を、戦争を知らない子ども達に伝えていってください。

本実践における「活用」の考え方

1 ねらい

「僕」の心情についての叙述からその表現の仕方と心情を読み取り、それを使って弟の立場から兄（僕）へ手紙を書くことができる。

2 どのような基礎的・基本的な知識や技能を活用するのか

- ・繰り返し、省略、逆接の接続詞の効果
- ・戦時下で葛藤する「僕」の心情

3 このような具体的支援が必要です

- 「忘れない」、「忘れられない」、「忘れません」それぞれの文末の違いを比較させることで、「僕」の心情の違いを考えさせます。
- 「僕」が葛藤する場面について、その様子を本文の叙述を使って書かせることで、自分の考えを明確にします。

実践者からのお薦め

登場人物の心情について問うと、本文の叙述をそのまま取り出して答える子どもは多いのですが、複数の叙述を関連づけたり、自分の体験を照らし合わせたりしながら答えることがなかなかできません。


ここでは、本文に記述のない弟の立場になることで、単に叙述を取り出すだけでなく、複数の叙述や自分の体験などを基に思考することができました。



本単元の指導計画(全8時間)

習得1 (4)	①本文を通読して学習課題をとらえる。 ②弟についての叙述から、「僕」の弟に対する心情を読み取る。 ③弟の立場から、「僕」に対する気持ちを考える。
活用1 (1)	④当時の状況や「僕」の葛藤する本文の叙述から相互評価し、弟の立場から「僕」に手紙を書く。
習得2 (1) 活用2 (2)	⑤母親の表情・しぐさ・ひと言から心情を読み取り、「家族の〇〇」と題して体験文を書く。

指導の実際(活用1)

学 習 活 動	具体的な支援
1 前時に学習した、「僕」の弟に対する行為と、弟への思いの矛盾を確認し、本時のめあてをつかむ。	○文中の叙述を根拠にした思いの述べ方の例を示す。
弟の立場に立って「僕」(兄)に手紙を書こう	
2 弟の「僕」(兄)に対する思いを考える。 (1)本文中の叙述を根拠にして各自で考え、学習プリントに書く。 (2)グループで考えを出し合い、交流する。	○兄の行動面のみを根拠とするのではなく、兄の弟への思い(心情面)を根拠として考えることができるように、「かわいくてしかたがない」や「忘れない」などの叙述を提示する。 ○「忘れられない」「忘れません」などの表現の違いに着目させ、心情の変化をとらえさせる。
<div data-bbox="256 1218 639 1357" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">やっぱり怒りでいっばいだよ。</div> <div data-bbox="256 1391 655 1574" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">でも、このときは戦争中だったんだから、仕方なかったんじゃない？</div>	 <div data-bbox="1126 1261 1417 1541" style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 5px; display: inline-block;">かわいくてしかたなかったんだよ。その弟の唯一の食べ物を、普通だったら飲まないよ。</div>
【交流の視点】 <ul style="list-style-type: none"> ・兄の行動面と心情面の両方を根拠として述べられているか。 ・本文中に書かれていることを根拠として述べているか。 	○発表が不十分なときは、教師が問うことで、グループの考えを引き出す。
3 弟の立場に立って、「僕」への思いを手紙にする。	